



クライマ Ver 3

「くらいまあ」山之上の「登山家（とざんか）」



令和6年9月13日
校長通信（だより）10

中秋（ちゅうしゅう）の名月（めいげつ）と土星（どせい）

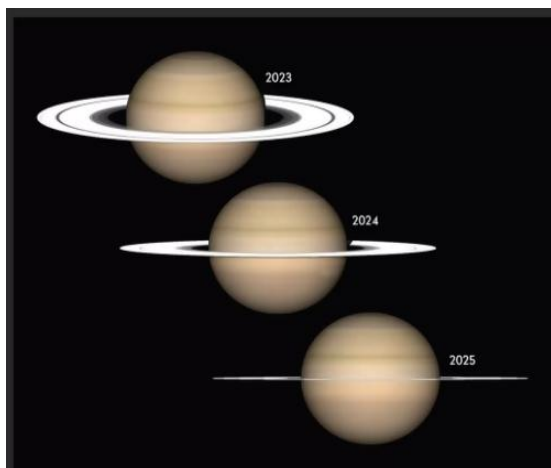
いつまでも暑く、今年の9月の残暑は本当に異常（異常）です。

でも、季節が移り変わり、17日は、「中秋の名月」、18日は満月（コーンムーン/ハーベストムーン）がみられます。今回は、名月に「土星」が大接近してみえるようです。夜空の土星は、光っている点にしかみえませんが、天体望遠鏡でみると、きれいで神秘的な「環」がみえます。

でも、来年の3月には、環がほとんど見えなくなる現象（土星の環が消える?）が予想されています。今回は2009年に環が見えなくなりました。

土星の環は、氷の粒でできているといわれています。その幅は地球が5つならぶくらい広いのに、その厚さは数十mほどしかなく、あまりにも環が薄いので、真横から見ると「消えた」ようになってしまふのです。

今の土星は、太陽の方向とは、正反対の位置にあるので、観測に適しているようです。天体望遠鏡があれば、すごく細くなっている土星の環を観測することができます。



来週の「中秋の名月」は、昔の暦で、「8月15日の夜に見える月」のことで、サツマイモなどをちょうど収穫する頃にちなんで、「芋名月」とも呼ばれています。名月を見あげながら、農作物の収穫に感謝の気持ちを表す習慣（作物の豊作を祝う）で、平安時代に中国から伝わった風習ともいわれています。

3連休あけの火曜日、晴れたら「中秋の名月」、翌水曜日は、「満月」が、きれいにみえることでしょう。夜中には、土星のほかに木星、火星もオリオン座の近くにみえます。夕方西の空には、金星（一番星）がとっても明るく輝いています。（宵の明星）



1年間の農作物の収穫に感謝しつつ、秋の星空を眺め、宇宙のロマンを感じることができたら素敵ですね。